

LOTを知る

考え方とその実践

加治初彦◎著

構想25年、ようやく実現した加治初彦先生のLOT集大成本。
『the Quintessence』や『歯科衛生士』の歴代担当者思い入れの1冊。



数ある矯正専門医による GP のための LOT 入門書のなかで、米国で TMD、矯正を学んだ著者による本格的な LOT の入門書。過去の『the Quintessence』での複数回の連載、『歯科衛生士』での連載をもとに、著者の独特の発想による理解の助けとなるイラストを豊富に用いた好評の内容に、長年の臨床経験から今話題のインプラントアンカースクリュー（ミニインプラント）、アライナー矯正についても言及。臨床例も多数掲載。

著者の独特の発想による理解の助けとなるイラスト



LOTを知る 考え方とその実践 CONTENTS

ペリオやインプラントの治療にともなってニーズが高い多数歯のLOTを行うにあたって、GPであってもその概念(セファロ分析などの矯正的アプローチ)を理解したうえで実践することの重要性を説く。多くのイラストと臨床例で解説。

第1章 LOTを日常臨床で生かすには

第2章 臨床で骨格系を診断するには

第3章 LOTでのセファロの応用を考える (その1)

第4章 LOTでのセファロの応用を考える (その2)

第5章 LOTの診断を考える(その1)

第6章 LOTの診断を考える(その2)

第7章 LOTの診断を考える(その3)

第8章 LOTのメカニクスを考える

第9章 LOTのメカニクスを考える — FPAとUAの適用

第10章 LOTのメカニクスを考える — ボンディングとワイヤーベンディング

第11回 LOTとTMD

第12章 LOTとペリオ

第13章 LOTとインプラント, TAD

第14章 LOTとアライナー

連載中も好評であった「コラム」も掲載。

■コラム：戦前にもいた矯正専門医

大正デモクラシーが終わり、日本が中国で戦争を始めた昭和6年(1931年)の時点、すでに東京では矯正専門医として活躍している歯科医師がいた。そのうち何名かは米国のアングルススクールを卒業した後、専門医として活躍していた。寺木定芳(1907年入学)や松本茂暉(1924年入学)がその人びとである(松本の医院は新宿で整美会矯正歯科クリニックとして現在も続いている)。現代社会と異なり、矯正治療は決して普通の人びとの間で一般化しているわけではなく、米国と同様、日本でも上流階級もしくは富裕層のみを対象とするような特別な歯科医療であった。

戦争直後の米国は、戦勝国であり、疲弊したヨーロッパと異なり世界中で一番豊かで成熟した国となった。結

果として、人びとの間で矯正治療は爆発的に広がり一般化していった。現在の米国では、子どもが大人になる際の通過儀礼として考えられるほど矯正は普及している。反面、その後、遅れて豊かになった日本では、文化の違いから成長期の矯正は米国ほど普及しているとはいえない。逆に、超高齢社会を迎えたなかで、“切実なケース”の矯正は割合からすると日本のほうが多いのかもしれない(米国では歯を残そうとすると、医療費が高額になるという背景もあるが……)。



▲松本茂暉先生。

きりとり線

注文書

LOTを知る 考え方とその実践

モリタ商品コード:208041025

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	
		支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。